

保育士・幼稚園・小学校教員養成課程における
造形表現・図画工作科の授業の在り方

佐々木 啓祐*

A proposal for teaching Art and Design
in preschool, kindergarten, and elementary school teacher training programmes

SASAKI Keisuke

要約

保育者・小学校教員養成大学・学部での造形表現や図画工作科に関する科目の授業は、中学校や高等学校の美術科の繰り返しや延長ではなく、数年後に園や学校で造形表現や図画工作科の指導を行うことができるよう、幼児・児童が行う造形遊びを体験したり、造形教材を開発したりする授業であり、さらにその上で構成力など、造形能力を高める授業であるべきである。本稿では、このような考えに基づき、保育者・小学校教員養成大学・学部での教材の条件を、学生たちが楽しんで取り組める教材、授業での造形活動が子どもたちの造形活動に結びつく一体的な教材、子どもたちの様々な作品や造形活動を知ることのできる鑑賞教材とし、具体的な実践を掲載している。

キーワード：幼児・児童の造形活動 造形教材の開発 造形能力の向上

Abstract

University Art and Design classes for nursery and elementary school teacher training should not be a repetition or extension of art classes at junior high schools and high schools. They should be classes to experience Art and Design, and to develop Art and Design materials for infants and children so that teacher trainees can teach these at preschools and schools after graduation. In addition, these classes should be classes to enhance the ability to compose and develop Art and Design skills. Based on this concept, this paper describes concrete practices of teaching Art and Design at universities for training nursery and elementary school teachers, with the following requirements: teaching materials that students can enjoy working with, teaching materials that integrate classroom Art and Design activities into children's Art and Design activities, and viewing materials that enable children to learn about various works and Art and Design activities. This paper includes specific practices.

key words: Art and Design activities for infants and children, development of Art and Design teaching materials, improving Art and Design skills

受理年月日：2023年7月31日 *高松大学発達科学部准教授

1. はじめに

昨年度、本学で、幼児の造形教育に係る必修科目「保育内容-表現Ⅰ」に加え、小学校教員養成のための必修科目「図画工作Ⅰ-Ⅰ」・選択科目「図画工作Ⅰ-Ⅱ」を担当し、今年度で2年目を迎えている。

昨年度当初、保育士や幼稚園・小学校教員をめざす学生たちへ、どのような授業をしたらよいのか、授業内容を考えるに当たって、まず知りたかったことは次の2点である。

1点目は、授業の計画や実施に際して小・中学校の学習指導要領のような「教科の目標や内容が示された基準」のようなものがあるのかについてであり、2点目は、他の大学ではどのような授業がなされているのかについてである。

2. 授業計画作成に当たっての指針

まず1点目については、教育職員免許法施行規則によって、「教科及び教科の指導法に関する科目」（幼稚園の場合は「領域及び保育内容の指導法に関する科目」）について最低取得単位数が定められており、平成29年11月の「教職課程コアカリキュラム」（大学が教職課程を編成するに当たり参考とする指針）によって、教員養成における全国的な水準確保のため、修得すべき資質能力が示されている。ただし、これらは教科や保育内容ごとに示されているのではなく、大きくくりに通事項として示されている（本稿最終頁に掲載）。

例えば、「各教科の指導法」の全体目標を「当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。」とし、「(1)当該教科の目標及び内容」や「(2)当該教科の指導方法と授業設計」について、それぞれ「一般目標」と5つの「到達目標」が示されている。

なお、保育所保育指針や幼稚園教育要領における造形表現は、健康・人間関係・環境・言葉・表現の5領域の1つとして、音楽や身体表現とともに「感性と表現に関する領域」として位置付けられており、ねらいや内容が示されている。

3. 保育者・教員養成大学・学部の実態と課題

保育者・小学校教員養成大学・学部の造形表現や教科指導の科目（図画工作科）ではどのような授業がなされているのだろうか。他大学のシラバス（教師が学生に示す講義・授業計画）を調べるなどして、おおよそ次のような3つ授業に分類した。

表1 授業分類

- | |
|--|
| <p>① 描写力や構成力など、基本的な造形能力を高める授業
（例）鉛筆デッサンやデザインの構成練習など</p> <p>② 保育士・教員が現場で行う環境づくりや教材・教具づくりに係る授業
（例）掲示物づくり、案内状づくり、絵本や紙人形づくりなど</p> <p>③ 子どもたちが行う造形活動（遊び）を体験したり、造形教材を開発したりする授業
（例）様々な素材や材料を使った造形遊びなど</p> |
|--|

①描写力や構成力など、基本的な造形能力を高める授業

平たく言えば、小・中・高等学校の図画工作や美術の授業の延長だったり、繰り返したりする授業である。教員経験者であれば、これまでと同じような教材であることから新たに教材研究も必要ないし、デッサンや写生であれば、簡単な準備をして、描き方を教えて、後は机間指導をしていれば、それなりに作品は出来上がる。

本学でも、かつては石膏像のデッサンが行われていたのか、今は使われていない多くの石膏像とカルトンが残されている。

なお、本学には私のほかに数名の造形教育関係の教員がいるが、さすがに今は誰も石膏デッサンに行っていない。



図1 図工室にある石膏像

また、こうした①のタイプの授業を後押しするのが、保育士や教員採用試験の実技試験で、鉛筆デッサンが出題されている（いた）ことである。

私は、図画工作科の指導や幼児の造形教育には、指導者の能力として、描写力は、「そこそこあればいい程度」だと思っており、教員養成大学・学部の造形表現に係る科目の授業への必要性は極めて低いと考えている。ましてや、石膏デッサンとなると、ごく一部の学生を除いて学生たちに苦役を強いているだけである。

私はこれまで、小学校の図画工作科の研修会で、「小学校の図画工作の指導に、教師が上手く描ける能力はさほど大事なことはありません。子どもたちの表現の指導に必要な能力は、描写力ではなく構成力（構成感覚）です。さらに大切な能力は、鑑賞力です。」と話していた。

② 保育者・教員が現場で行う環境づくりや教材・教具づくりに係る授業

保育士や教員の仕事として、玄関や教室、廊下等園内・校内の掲示物の作成がある。特に、保育所や幼稚園、こども園では、色画用紙を使って、子どもたちや森の動物たちが楽しく集っている様子などのイラストが飾られている。これらはすべて、保育士や教員の仕事である。

子どもたちの造形活動の教材作成ではないが、造形性の高い掲示物の作成は、園内・校内に花を育てたり飾ったりするのと同様に、幼児・児童の環境づくりに大切な役割を果たしており、大学の授業の教材として扱うことは、理にかなったことである。

そして、こうした掲示物の作成は、たいていの場合、ネット上のイラストをコピーしたり、描き写したりして、それらをバランスよく配置する作業が中心となることから、作成に必要な造形能力は色や形の構成力である。

③ 子どもたちが行う造形活動（遊び）を体験したり、造形教材を開発したりする授業

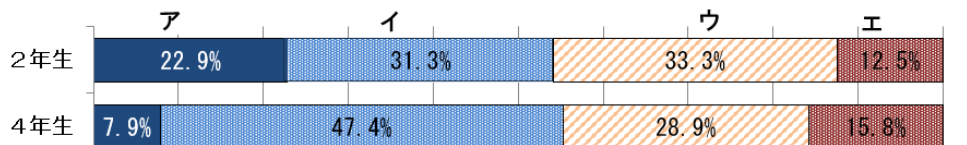
保育士・教員となって、表現領域や図画工作科のねらいを達成するために、どのような造形活動を行えば、子どもたちが夢中になってと取り組むことができるのかについて学ぶことは極めて大切なことである。

このことは、学生たちのアンケート調査（次頁）からも明らかであり、こうした授業を学生も求めている。

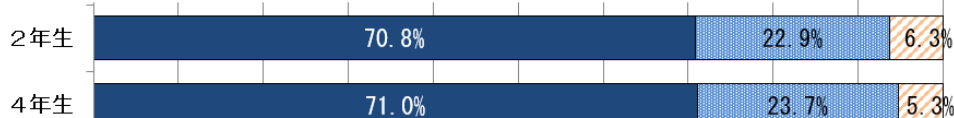
Q (1) (2) (3)の保育者養成校の造形領域で行われている授業は、どの程度必要だと思いますか。

[4年生は、2022. 10. 26 (38名)、2年生は、2022. 4. 6 (48名) に実施]

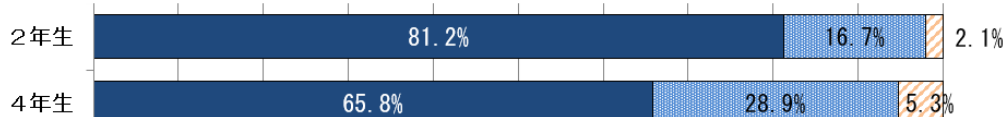
(1) 描写力構成力など、基本的な造形能力を高める授業



(2) 保育者が現場で行う環境づくりや教材・教具づくりに係る授業



(3) 子どもたちが行う造形活動を体験したり、造形教材を開発したりする授業



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

ア ぜひ必要 イ 必要 ウ どちらかといえば必要 エ あまり必要でない

図2 アンケート調査「学生が求める保育者養成校での造形表現の授業」

なお、本アンケート調査は、2年生については、本年度当初の私の最初の授業「保育内容-表現I」(必修)の終了時に行ったものである。4年生については、本年度10月に、「保育・教育実践演習」(必修)全30コマのうちの造形表現に関する2コマで、子どもたちの作品鑑賞と色紙を使った作品づくりの最後に行ったものである。なお、調査対象の4年生はこれまでに私の授業は受けていない。

これら保育者・教員養成大学・学部(保育者養成校)で行われている授業について、岡山大学 高橋敏之氏は、次のように述べている。

『第二は、保育者養成校に専任教官が常勤し授業科目名にも問題はないが、授業内容に問題がある場合である。例えば、「幼稚園図画」の授業内容が石膏像の素描や風景の水彩画や静物の油彩であったりする。担当教官が、「美術の基本であるデッサン力は、そういう制作活動によって初めて培うことができる」と開き直ればそれが通用する現状、そういう授業を放任している学科と大学の運営、担当教官の就学前造形教育に対する不勉強と怠慢などが大きな問題である。学生の造形思考・造形感覚・造形技能を育て、保育者の専門性としての造形理解を深めさせたいのであれば、幼児教育の枠組みの中での就学前造形教育に相応しい「絵本」や「紙芝居」の制作などの教材がいくらでもあるだろう。

保育者養成校の造形領域の授業は、いわゆる芸術学部や美術学部での授業と同じ内容であるはずがなく、もし同じであるなら、そのこと自体が既に問題である。……(略)……「同じ美術ならみな似たようなもの」という誤った認識を根底から意識改革する必要がある。』

この論文に出会ったとき、まさしく私が感じていることを的確に表現していると大いに共感した。

4. 保育者・教員養成大学・学部の授業

保育者や教員は、日頃から、幼児・児童の造形活動の教材研究に努めなければならないが、同様に、保育者や教員を育成する保育者・教員養成大学・学部の教員も、幼児・児童の造形活動の教材研究に努め、学生たちに成果を提供していく必要がある。

保育者・教員の造形能力の資質能力の向上も、そうした幼児・児童の教材研究の視点から、構想しなければならない。

昨年4月授業を受け持って以降、学生たちへ実施してきた授業は、「教職課程コアカリキュラム」にもある「学生たちが「具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。」こと、すなわちアンケート調査の「③子どもたちが行う造形活動を体験したり、造形教材を開発したりする授業」を中心に、その上で、幼児・児童の教材をそのまま体験するだけでなく、構成力など、アンケート調査の「①基本的な造形能力を高める授業」も併せてめざしている。

なお、私は幸いにも県教育委員会の「家族でアート推進事業」のアートの先生に委嘱され、県内の保育所や幼稚園等に派遣されていたり、大学で、子どもたちに造形遊びを提供するなどの活動をしているボランティアグループの顧問をしていたりすることから、絶えず教材開発に努めなければならない環境に置かれている。このため開発した造形教材を子どもたちに実践してみることができることから、具体的な指導方法など、実践に基づいた授業を展開することができている。

5. 実践例

5. 1 実践例Ⅰ 【幼児の造形教材】

「だんだん大きくなるよ」(5歳児)

色紙を小さく丸く切って別の色の折り紙に貼り、少し大きく周りを切って、また別の折り紙に貼る。これを繰り返す。

参考作品を見せながら、作り方の手順を説明し、やって見せ「さあ、やってごらん」と言うと安心して作業開始となる。

色紙は、100円ショップで売っている一辺が15cm、18cmのものが標準だが、文具店で大きな色紙(一辺25cm、35cm)を購入すると大きな作品をつくることができる。

ねらいは、色紙を重ねて貼っていくことで、色の変化の美しさを子どもたちなりに感得することである。



図3 制作風景 2022.9.6 琴平町立北こども園(5歳)

5. 2 実践例Ⅱ【学生の造形表現に係る教材】

「同心円による構成」(Concentric Circles)

本教材は、上記の幼児の造形教材「だんだん大きくなるよ」の大学生用教材として、カンディンスキーの作品「Squares with Concentric Circles」(1913)から発想した。

折り紙を手でちぎったりハサミで切ったりして徐々に大きな円をつくり、同心円(Concentric Circles)状に重ねて貼る。それを正方形(Squares)の色画用紙の貼り付け、そうした同心円と四角形を一つのユニットとし、それらを複数組み合わせることで台紙に構成するという作品づくりである。

材料は様々な色の折り紙と色画用紙、それらを貼るボール紙、道具はハサミとスティックのりで、手軽に作品づくりに取り組むことができ、色彩感覚と構成感覚を育てることのできる格好の題材である。

授業では、幼児の造形教材「だんだん大きくなるよ」の作品や実践の様子を紹介した後、に作品づくりを行っている。



図4 説明時に使用するパワーポイントシートから

〔制作の条件〕

- 作品の大きさは自由。 最大 32cm×24cm
- 出来上がった同心円の四角形を使って台紙に構成する。
- 空きスペースには色画用紙を貼って埋めてもよい。
- ハサミで切っても手でちぎってもよい。
- 特に円形でなくてもよい。

本教材は、幼児の造形教材をもとに形や色彩に対する構成力を高めることを目的として教材開発したが、学生たちは提示された条件の中で豊かに発想し、創意工夫した作品を毎年のように生み出している。



図5 学生作品
2022. 10. 26

左端は色紙の他に包み紙を使っている。

中央上は弁当箱のおかずを表している。

5. 3 実践例Ⅲ【幼児の造形教材】

「バブルアート」(4・5歳児)

次の2つのつくり方でシャボン玉模様をつくった。

1つ目は、絵の具で色を付けたシャボン液をカップに入れ、ストローで吹き、吹きこぼれた泡を画用紙に落とし込む方法。

2つ目は、ペットボトルと布を使って写真のような道具を作り、それを使って泡をつくる方法。

布目が細かいと小さな泡が、レース地のように荒いと大きな泡ができる。



図6 制作風景
説明資料



2022. 6. 28 琴平町立北こども園 (5歳)



2021. 6. 18 志度幼稚園 (4歳)



園の先生方への説明資料から

〔指導上の留意点〕

●色数を制限する

こうした絵の具遊びの場合、絵の具が用紙上で混ざり合うことから、多くの色を使うと汚く濁ってしまう。ポスターカラーを10色程度用意し、その中から3・4色を子どもたちに選ばせるなど、色数を制限したほうがよい。

●止めさせどころ

子どもたちを放っておくといつまでも作業を続け、やがて色が濁ってきたり、模様が潰れてきたりする。「今、とっても感じいいね。」といって、教員が完成を指示するとよい。

●空いたスペースに作業を進めさせる

大きな用紙を使った制作の経験が少ないと、子どもたちは、目の前のスペースに留まって繰り返し作業する傾向にある。そのため、空いたスペースにどんどん作業を進めていくよう指示する必要がある。

●カップを傾け過ぎない

作品づくりは、3人で全紙1枚に泡を落としていくが、子どもたちの最もよくある失敗は、カップとストローを使っての泡づくりでは、吹きこぼれた泡を用紙に落とすことに熱中するあまり、カップが大きく傾き、中のシャボン液を用紙にこぼしてしまうことがある。カップを傾け過ぎないことを、事前に、また作業中にも、何度も声掛けをする必要がある。

●シャボン液を吸わない

ストローを吹いてシャボン模様をつくる方法では、ストローを“吸う”ことに慣れていないため、ついついシャボン液を吸ってしまったことがこれまでに何度か起きた。さらに、ペットボトルを使った道具で泡をつくる方法でも、大量に息を吸う必要があることからか、ペットボトルの吹き口をくわえたまま息を吸い、シャボン液も吸い込むことが起きた。いずれの方法においても、頻繁に注意をし続ける必要がある

5. 4 実践例Ⅳ【学生の造形表現に係る教材】

「バブルアート」

本教材では、共同制作ではなく個人制作として、子どもたちと全く同じ技法で制作を体験させた。さらに、発展課題として、つくられた泡模様を切り貼りして構成作品としたり、トリミングをして額装したりすることにより、構成力を育てるとともに、完成の喜びや飾ることの楽しさを味わわせることをねらった。

〔指導上の留意点〕

作品づくりの前に、子どもたちの作品や制作風景を見せながら、つくり方や子どもたちへの指導方法を伝える。もちろん先に述べた失敗談も伝え、指導する立場となることを意識させた上で制作にとりかかるが、大切なことは材料や道具はできるだけ学生たちに用意させることである。

学生たちは、保育や教育現場では材料や用具を用意する立場となるためである。材料の絵の具や用紙等のメーカーや値段、購入方法も伝えておきたい。

また、こうした絵の具遊び（技法遊び）では、あらかじめ絵の具を制作内容に応じて適量の水で溶いてトレイに用意しておく必要があることや、一度チューブから出したら元には戻らないため、少量をつくって無くなったら小まめにつくり足すなど、コスト意識を育てたい。

絵の具をつくり過ぎて、余った絵の具を大量に流しに捨てることのないよう、授業の度に指導している。大学の授業では教材を提供される側であるが、保育・教育の現場では教材を提供する立場となることを自覚させたい。



図7 制作風景（トリミング、額装） 2022年 前期学生作品



図8 学生作品 2021・22年 前期

5. 5 実践例Ⅴ【幼児の造形教材】

「わたしの顔を描く」(4・5歳児)

私が実践した幼児への描画指導は、描く順番など、描き方を具体的に示し、その通りに皆で一緒に1つずつ描いていくという方法で行った。

- 材料…… チューブから出したポスターカラーを水で薄めずに使って、四つ切り画用紙に描く。
- 描き方… 筆を使わず手のひらや指で描く。
- 順番… ①画用紙いっぱいに顔を塗る。(手のひら)
 ②目の白いところを左右に2つ塗る。(人差し指)
 ③その上から黒い目玉を塗る。(中指)
 [手を洗う]
 ④少し黄土色を混ぜて鼻を塗る。(人差し指)
 ⑤ちょっとだけ赤を混ぜてほっぺを塗る。(中指)
 ⑥もうちょっと赤を混ぜて口を塗る。(中指)
 ⑦耳を塗る。(人差し指)
 ⑧最後に髪の毛を塗って完成。(手のひら)

図9 制作風景



ここでは顔を塗ったすぐ後に、髪の毛を塗った。



さぬき市立さぬき北幼稚園 (4・5歳) 2020.9.15



坂出市立松山保育園 (5歳) 2019.7.25



さぬき市立志度幼稚園 (4歳) 2021.11.10

〔指導上の留意点〕

園や学校で絵を描くとき、先生は「描くもの（テーマ、場面）」「描画材料・用具」「描き方（描く順番や絵の具の使い方など）」をある程度指示する。

これらについて、「私の顔を描く」の実践は、描く順番までも指示し、「みんな鼻、描けた？ じゃあ次、ほっぺを塗るね。」と言って、一つ一つ全員が描き終わってから次を描くという方法をとった。このことで、ほとんどの子どもたちが技術的に高いレベルの作品を仕上げることができた。まさに「酒井式描画指導法」である。

「3歳児が描いた顔」

左が自由に描いたもの、
右が酒井式で描いたもの



描く順番は、
①鼻、②口、③耳
④まゆ、⑤あご、
⑥ほっぺ・こめかみ、
⑦耳、⑧髪
⑨めがね

図10 「酒井式エチュード&シナリオ厳選23」明治図書 から

【児童の造形教材】

「わたしの顔をつくる(自画像)」(1・2年生)

色画用紙を切り貼りして自画像をつくる教材である。

描くことに比べ、色面に単純化された顔のパーツを位置や大きさ、形などを修正しながら組み立てていく作業は、1本の線で形を決めるという描く作業に比べて、描くことの抵抗感を軽減するため、描くことの苦手な児童たちには格好の教材である。



香川大学教育学部附属小学校4年 2018年



高松市立鬼無小学校1年 2018年

右の中学生の作品は、ベテランの国語の先生の影響を受けて、若い体育科の男性教員が学級の時間につくらせたものである。自画像を描くことを嫌がる多感な中学生であってもここまで単純化すれば抵抗なくつくることができ、優れた造形教材といえる。

高松市の中学校では、この国語の先生の影響から同様の自画像をつくらせ、教室掲示している先生が何人もいる。



高松市立紫雲中学校2年 2017年

図11 教室掲示

5. 6 実践例Ⅵ【学生の図画工作科に係る教材】

「切って、ちぎって、貼って自画像づくり」

学生であっても小学生と制作方法は変わらないが、掲示用ではなく、作品として八つ切り画用紙に貼って完成させた。

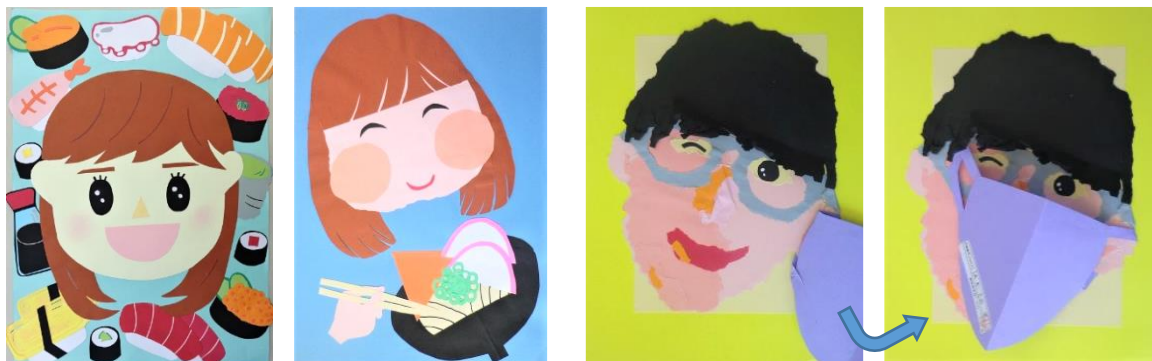


図 12 学生作品 2021・22 年前期「図画工作 I-I」

なお、本教材は、高松市総合教育センターに研修指導員として勤務していた頃、市内の若手教員を対象として土曜日に開催していた「高松塾」の図画工作科教材としていた。



図 13 高松市教員作品 2018. 6. 16

5. 7 実践例Ⅶ【学生の造形表現に係る教材】

「作品鑑賞会」

本年度前期の「保育内容-表現 I」「図画工作 I-I」の授業では、ともに 15 回の最終回に作品の相互鑑賞会を行った。自分がつくった作品を机の上に並べて、教室内の友達の商品を見て回り、気に入った作品を理由とともにワークシートに記入させた。

図 14 授業風景
(作品鑑賞会)



「保育内容-表現 I」2022. 7. 27 「図画工作 I-I」2022. 7. 21

大学の授業は、前・後期制でそれぞれ 90 分×15 回で構成され、半期で小学校高学年 45 分×年間 50 回の 6 割に当たる時間があることから、作品制作（表現）に加え、鑑賞の時間もそれなりに確保することができる。

図工や美術の授業では、表現と鑑賞の一体化と言われるが、大学の授業でも、保育や教育の現場で行う子どもたちの教材と、大学の授業との教材の一体化・セット化を図る中で、多くの子どもたちの作品等を鑑賞することで、指導できる教材、指導したい教材を少しでも多く蓄えておきたい。

図 15 Power Pint シート
(作品鑑賞用)
Power Point で子どもたちの作品や活動の様子を紹介している。



6. 大学生への造形教材

本年度前期実施の教材は次のように整理される。

● 幼児・児童の教材と同じ教材に取り組む

(例) 「ビー玉転がし」「自画像づくり」「不思議な卵」

図 16 学生作品
2022 年前期



「保育内容－表現 I」

通常は紙箱を使うが、作者は 100 均で木箱を購入した。



「図画工作 I-I」

人気の教科書教材 (日文 1・2 年下)

● 幼児・児童の教材をもとに、発展的な構成作品に取り組む

(例) 「バブルアート」「同心円による構成」「デカルコマニー」

図 17 学生作品
2022 年前期

「保育内容－表現 I」

デカルコマニーで様々な色紙をつくり、それを切り貼りして作品をつくった。

(エリックカールの「はらぺこあおむし」と同じ要領)



● 幼児・児童と同じ教材だが、より技法を工夫して作品づくりに取り組む

(例) 「スパッタリング」「ローラーペインティング」

図 18 学生作品
2022 年前期

「保育内容－表現 I」



一つ一つマスキングして 10 数時間をかけスパッタリングした。



スタンピングとローラーペインティングの技法を駆使している。

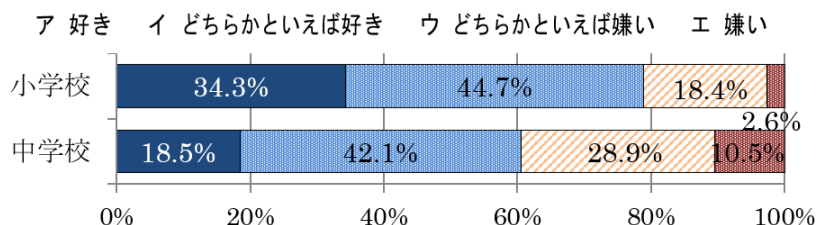
7. おわりに

保育者・小学校教員養成大学・学部の目的は、保育士や幼稚園・小学校教員をめざす学生たちに対して、実践的指導力や指導意欲を高めることである。

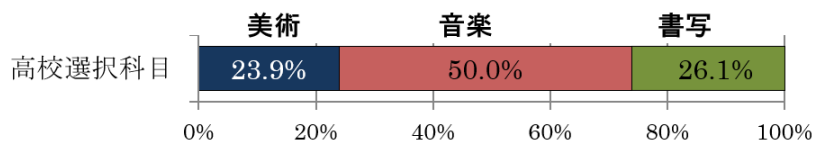
大学の授業で「先生となって子どもたちと造形活動を楽しみたい。」という思いをもたせ、指導力等、必要な資質能力を身に付けさせなければならない。

そのために最も必要なことは、「保育者や教員自らが造形活動を楽しむことができること」「造形活動が好きであること」である。子どもたちも保護者も造形活動が好きではない先生に造形活動を教えてもらいたくはないだろう。

Q 小学校（中学校）の時、図工（美術）の授業は好きでしたか。



Q 高校の時の選択科目は何でしたか。



〔2022. 10. 26（38名）実施〕

図 19 アンケート調査「図工や美術授業は好きでしたか」

上記アンケートによると、小学校では約2割、中学校では約4割の学生が図工や美術の授業に対してマイナスイメージを持っている。以前実施されたベネッセの調査では、小・中と学年を経るにつれて「好き」だと回答する児童生徒の割合が低下しているが、本アンケート結果からも実感することができる。

こうしたアンケート調査の結果も踏まえて、保育者・小学校教員養成大学・学部での教材の条件を次のように整理する。

●学生たちが楽しんで取り組める教材

約4割の学生が、必修教科である中学校の美術科に対して「あまり好きではない」「嫌い」と回答している。

一方で、幼児や児童の造形活動は「遊び」であり、「遊び」の条件は「楽しいこと」「面白いこと」である。同じように学生たちも感じることで、造形活動が好きになることが、将来指導する立場となる学生たちへの授業に最も求められる条件である。

ちなみに学生へのアンケート調査等から、生徒を美術嫌いにする1番の教材は、県内の中学校で入学当初の教材として行われている「鉛筆淡彩で上靴を描く」教材である。



図 20 鉛筆デッサン

●子どもたちの造形活動に結び付く一体的な教材

近い将来、学生たちが現場で勤務する際に、意欲的に取り組むことのできる教材を少しでも多く持つことができるよう、前掲のとおり、子どもたちと同じ教材であったり、発展的な教材や関連する教材であったりすることが大切である。

●子どもたちの様々な作品や造形活動を知ることのできる鑑賞教材

表現と鑑賞は車の両輪のように一体的なものであり、子どもたちの作品や作品づくりの様子を見ること（鑑賞）は、作品づくり（表現）では得られない子どもたちの幅広い表現を受け入れる感性を身に付けるとともに、指導者の指導の工夫を見取ることができる。

●その他

条件とまでは言えないが、掲示物や絵本づくりなど、学校・園で行う保育者の仕事に生きて働く能力形成に結び付く教材は学生たちが望んでいる教材でもある。

以上、最後にこれら教材の条件を述べて、本稿のまとめとしたい。

[引用・参考文献]

- ・ 佐々木啓祐著「子どもたちが夢中になって取り組む幼児の造形活動」,
香川県中学校美術教育研究会機関誌「美術教室」第58号, 2021年
- ・ 高橋敏之著「保育者の専門性としての造形理解と幼年造形教育学の構築」,
日本保育学会誌『保育学研究』（ISSN 1340-9808）
<https://researchmap.jp/read0015952/misc/3951040?lang=en>
- ・ 文部科学省 教員養成部会決定「教育課程コアカリキュラム」
<https://www.mext.go.jp> 令和3年8月4日

【資料1】

教職課程コアカリキュラム (令和3年8月4日 教員養成部会決定)

教科及び教科の指導法に関する科目

<p>■各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)</p>	<p>■保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)</p>
<p>全体目標： 当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p>	<p>全体目標： 幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場면을想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p>
<p>(1) 当該教科の目標及び内容 一般目標：学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。</p> <p>到達目標： 1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 3) 当該教科の学習評価の考え方を理解している。 4) 当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 5) 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。 ※中学校教諭及び高等学校教諭</p>	<p>(1) 各領域のねらい及び内容 一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。</p> <p>到達目標： 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域ごとに幼児が経験身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p>
<p>(2) 当該教科の指導方法と授業設計 一般目標：基本的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> <p>到達目標： 1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 2) 当該教科の特性に応じた情報通信技術の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 5) 当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。 ※中学校教諭及び高等学校教諭</p>	<p>(2) 保育内容の指導方法と保育の構想 一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場면을想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>到達目標： 1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2) 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>

【資料2】

保育関係の授業を選択する高校生に、子どもたちへの造形教材である「バブルアート」を実践授業した。新聞記事とTV放送の画面を掲載する。

四国新聞 2022.10.02

保育の仕事 魅力実感



バブルアートを体験する生徒＝丸亀市飯山町、飯山高

授業は保育士不足が待機 参考にしてもらおうと、県児童発生の主な要因となっ が2018年度から実施していることを受け、高校生 今回は9月26日にあり、高を対象に保育士養成施設の 松大発達科学部の佐々木啓学びを体験し、進路選択の 祐准教授が講師を務め、総

高校生が保育の仕事の魅力を学ぶ授業が、丸亀市飯山町の飯山高校（大平敬校長）であった。生徒たちは保育現場での造形活動について研究する講師の話に耳を傾けながら、色付けしたシャボン玉の泡で絵を描く「バブルアート」を体験。専心に戻って楽しみつづ、道具の準備や活動を止めるタイミングなど保育士らが現場で果たす役割にも理解を深めた。

飯山高 専門家が造形活動指導

合学科で「子どもの発達と保育」を選択履修する2年生11人が参加した。佐々木准教授は幼児が表現活動に取り組む前提として、「感じたことや考えたことを自分なりに表現する遊びでなければならぬ。遊びの条件は楽しいこと」と定義。絵の具を落としたり垂らしたりして作品を制作する「ドリッピング」やさまざまな道具を準備して行う「スタンピング（型押し）」なども紹介し、「面白いから夢中になって取り組み、自主性が育つ。ぜひ造形活動が好きな先生になって」と呼びかけた。

バブルアートは、絵の具で色付けしたシャボン液をストローなどで吹き、さまざまな色の泡を画用紙に落とし込んで絵を描く。生徒たちは一部を切り抜いて額に入れたり、別の画用紙に貼り付けたりすると、立派な作品として残せることなども教わり、前田姫奈さん（16）は「きれいな作品ができて楽しかった。保育士の仕事も少しイメージできたかな」と話していた。

News Park KSB (2022.09.26)

